

1. 研究主題

各教科等におけるICT機器を活用した「わかる授業」の創造

～生徒同士が主体的・協働的な学習を通して理解を深める指導法を探って～

2. 主題設定の理由

(1) 学習指導要領と社会の要請等から

社会や産業、生活・文化等のあらゆる場面で急速な情報化が進展する中、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の育成が求められている。こうした時代の要請を受け、学習指導要領及び本市の学力・体力向上アクションプランにおいて、ICTの一層の活用が位置付けられている。

これからの時代を生きる子どもたちに必要とされる「主体的に課題を発見し、解決に導く力」「創造性、チャレンジ精神、忍耐力、自己肯定感」「コミュニケーション能力、多様性を受容する力」を育むためには、「生徒が主体的に取り組む授業」や「わかる授業」の充実を図ることが重要であると考えます。

また本校では、本年度より本市ICTリーディングスクールとして指定を受け、タブレット型コンピュータ40台ならびに無線LANを導入し、全教室においてPCが活用できる環境が整った。今後は、各教科・領域等で、タブレットPCや電子黒板等のICTを活用した授業事例や活用の考え方などについて研究を深め、発信していくことが本校に課せられた使命であると考えます。

(2) 本校学校教育目標の具現化のために

本校の学校教育目標は「教職員の信頼と協力を基調とし、一人一人の生徒に人権の精神を培い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな生徒の育成を目指す。」であり、目指す子ども像を下記のように設定している。

- ① 明るく生活し、夢を育む生徒
- ② 友人や環境を大切にし、進んで奉仕する生徒
- ③ 自ら学び、努力する生徒
- ④ 心身を鍛え、たくましく生きる生徒

③の「自ら学び、努力する生徒」を具現化するためには、子ども達が主体的に取り組む「わかる授業」を実践していくことが大切である。子ども達一人一人の思考を助け、学習内容を深めるためのICT機器の効果的な活用の在り方を探ることは、本校教育目標具現化のために有効であると考えます。

(3) 生徒の実態から

本年度実施した全国学力・学習状況調査の結果では、すべての教科においてほぼ同程度の結果であった。

一方、生徒質問紙の結果において、質問事項に対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」など肯定的な回答をした生徒の割合は、「1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」で65.0% (全国平均73.8%)、「1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」で46.8% (全国平均53.8%)、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」で74.1% (全国平均76.3%)であった。

この結果から、本校では自分の意見を発表する機会が設けられているが、話し合い等の言語活動を積極的に取り入れた授業や、自ら課題を設定し、学級やグループで様々な活動を行い、課題を解決していく授業がやや不足していると考えられる。つまり、今後アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を充実させることができれば、より一層の学力の向上が図れるものと考えられる。

そこで、「生徒が主体的に取り組む授業」や「わかる授業」を実現していくため、これまでの学習指導法や学習形態の工夫とともに、新たな手段として、タブレットPC等のICTを積極的に活用した授業を構築していく。

3. 研究仮説

各教科等の学習指導において、授業のねらいに即したICTの活用をすれば、生徒が主体的・協働的に学習を進め、「わかる授業」が効果的に実現できるであろう。

4. 仮説実証のための取り組み

(1) 各活用場面で期待する効果と活用のポイントの明確化。

ICT、特にタブレットPCの特徴である携帯性を生かし、普通教室・特別教室などで活用する。また、校内の教育用ネットワークに接続することで、教師・生徒間の双方向で情報の共有を行い、新しい形の授業デザインを構築する。また、タブレットPCを効果的に活用する学習場面を設定する。

(2) 生徒の「主体的・協働的な学習」に重点をおきながら、一人一人の生徒の理解をより深める。

個別学習から協働学習へと進む授業を展開し、課題解決の課程を比較・検討する交流活動の場を位置付けた活動を設定する。

また、ICTの活用とともに、黒板の活用（板書）を明確にし、ICTの活用計画を盛り込んだ板書計画を作成・活用する。

(3) アンケート調査を実施し、取組の成果を検証し、次年度以降の授業実践に活用する。

(4) 実践事例をまとめ、発信する。

5. 主題に対する基本的な考え方

(1) 「ICTを活用する」とは

ここで言う「ICT」とは、コンピュータ、タブレットPC、デジタルTV、電子黒板、実物投影機、デジタルカメラ、ビデオ、プロジェクター等のICT機器のことである。そして、「活用する」とは、これらのICT機器（ハードウェア）と電子教科書やネットワーク上のコンテンツ、コンピュータでの自作教材、デジタル画像や動画などの「教材」（ソフトウェア）を授業のねらいを達成するために意図的・計画的に授業で活用することだと考える。

(2) 本校では「わかる授業」を次のように捉えるようにした。

- 授業のねらいが明確で、そのねらい達成のための学習活動が妥当である授業
- 子どもが課題を明確に捉え、主体的に追求活動をする授業
- 子どもたち同士の「わかり合う」場面ができるだけ多い授業
- 子ども達が「わかった」「できた」と実感し、充足感や満足感をもつ授業

- 子どもたち同士の伝え合いにより，思考が深まっていく授業
- 対話により思考が深まり，表現しようとする意欲が高まっていく授業

6. 研究スケジュール（3年間）

年 次	内 容
平成28年度（1年次）	5月：研究の概要説明 7月：リーディング校合同研修（門司海青小） 8月：タブレットPC導入，タブレットPC活用研修 9月：ICTを活用した授業実践（全教科）開始 生徒アンケート 11月：実践発表会 1月：北九州市学力状況調査 2月：リーディング校合同研修（高見中学校） 生徒アンケート 研究・実践のまとめ，次年度の実践計画
平成29年度（2年次）	4月：生徒アンケート ICTを活用した授業実践（全教科） 7月：リーディング校合同研修（門司中、門司海青小） 5月，10月：校内研修会 11月：実践報告会 1月：北九州市学力状況調査 2月：研究・実践のまとめ，次年度の実践計画
平成30年度（3年次）	4月：ICTを活用した授業実践（全教科） 7月：リーディング校合同研修（高見小） 11月：実践報告会 12月：北九州市学力状況調査 2月：研究・実践のまとめ

7. 本校のPC・ネットワーク構成（教育系コンピュータ）

	昨年度まで	本年度より
パソコン教室生徒用PC	デスクトップPC 40台	タブレットPC 40台
パソコン教室教師用PC	デスクトップPC 1台	デスクトップPC 1台
普通教室用PC	デスクトップPC 8台	ノートPC 8台
特別教室用PC	ノートPC 4台	ノートPC 4台
図書室用PC	デスクトップPC 1台	デスクトップPC 1台

授業支援ソフトウェア

- ・スカイメニュークラス（Sky株式会社）
- ・ミライシード（株式会社ベネッセ）

高見中学校 校舎図

